

大正十二年六月

情報彙纂 第十二

朝鮮に就て

朝鮮情報委員會

# 朝鮮に就て

(大正十二年五月二十二日京城銀行集會所に於て)

伯爵 副島道正

昨日佐々木事務官から今日皆さんの御會合がありますから、何か十分でも宜しいから御話申上げるやうにと云ふことでありましたので、實は御約束を致したのでありますが、爾來相變らず外國の宣教師などを訪問し多數の朝鮮人などにも面會して居るのであります非常にも多忙でありますので、殆んどどう云ふやうなことに就て御話申上げたら宜いかと云ふことを考へる暇もなかつたのであります、或は諸君の中に朝鮮に關する感想でも述べたら宜からうと云ふやうな御考への方もありませんが、私は素人でありまして、初めて朝鮮に來たのでトラヴェラーに過ぎません故に、迂つかり御話も出來ないことと思ひます、私以上に朝鮮の事情を知つて居られる方に向つて朝鮮に關する感想を陳べると云ふことも如何したことかと考へるのであります、私は一體海外旅行が好きでありまして、二年に一遍位は必ず内地を去つて何處かに行く、近くは上海、遠い時は亞米利加、歐羅巴に行くこと云ふ風に非常に旅行が好きである、それで方々漫遊致して居りますけれども、實は朝鮮は初めてであります、我が新附の同胞に接するのも今度が初めてであり

まして、寔に御恥しい次第であります、實は朝鮮に行かうと屢々思ひましたが常に其機を逸したのであり  
 ます。丁度富士山は何時でも登ることが出来ると思つて居る間に機會を失ふことがあるが、それと同じや  
 うに朝鮮に来る機會を屢々失つて居るは參りました。併し此の間中から朝鮮に来た人も多數ありま  
 す、貴族院議員、衆議院議員、新聞記者などはありますが、朝鮮を視察して歸つた人が非常に悲觀した意  
 見を陳べる、或は下等なことをやると朝鮮を失ふやうなことになるはしないかと云ふやうな極端な悲觀論  
 を唱へる人がある、これは産業の上から考へれば朝鮮は何等富源もない所である、富源のない所を日本  
 の領土にして何の利益があるか政治上か言ふて見れば人心將に日本から離反して居るのである、其の  
 結果はどう云ふこととなるか **馬場** 院 **亦** 院 **教育** の **普及** を **圖** つて **見** た **所** で、 **結** 局  
 教育を受けた朝鮮人は昨日になつたやうな教育をして何の利益になるか、要するに日本は飛ん  
 でもないものを背負込んだやうな教育の如く様々な悲觀説があります。それで私は之を聞いて非常に  
 遺憾に思ひまして、私は既に其の時に自分の結論を陳べて置いた、即ち君等は朝鮮と云ふ見地からのみ觀  
 るからである、先づ日本帝國と云ふ見地から考へれば、日本國民と云ふ點から考へて見れば決して日本が  
 朝鮮を失ふやうなことはあり得べからざることである、日本人が愚民ならばいざ知らず、日本人民は決し  
 て愚民ではない、數百年來封建政治の下に支配せられて門戸を鎖して外人を入れないと云ふて、即ち鎖國  
 して居つた日本が一度外患に迫られて已むを得ず門戸を開放するに當つて直ちに泰西の文明を輸入し、其

の長所を探り、遂に一躍して八大強國の一となり、更に進んで五大強國の一となり、今や三大強國の一となつた、愚民には斯う云ふことは出来ない、成程朝鮮の統治にも失敗もありませう、産業、教育その他總ての方面から言つて悉く直ちに成功すると云ふことはあり得べからざることである、朝鮮の統治に於ても一時は朝鮮の民情習慣を無視して失敗したことがあるか知れませぬ、併しながらそれ等は日本人は直ちに自覺して新たな方法を執り、所謂リベラル、ポリシーを朝鮮に布くことになつた。殊に齋藤總督に對する一般のインプレッションはどう云ふものであるか、所謂總督政治が完全に行はれつゝあると云ふことは内外人の等しく認めて居る所である、さう云ふ譯であるから、決して日本人が朝鮮を失ふと云ふことはないのであります、君は朝鮮は識らぬじやないかと言はれる人もありませうが、識らぬかも存じませんが、日本の歴史から考へて日本人はさう云ふ下手なことはやらぬと云ふ考が起るのであります、併し朝鮮を知らずに居る譯にはいかぬから、毎月第一水曜日毎に集る支水會と云ふものがあります、或人が朝鮮に關する講演を爲すと云ふので聞きに行きました。其の人は其の席上に於て非常に悲觀論を述べたのでありますから、私は其の席に於て其の人に約束して極く近くに朝鮮を觀に行くと言つて置いたのであります、其の約束を守つて私は此度朝鮮に參つたのであります、朝鮮に於ても實は五日か六日間位京城に居つて、北の方に行き、更に滿洲に行つて二十七日に極東オリンピック大會で一場の演説を爲す約束を致して居りましたから、それ迄には歸る豫定でありましたけれども、此方に來て色々外國人や鮮人に會うて大にインタレストを得

たので是は面白い、總て私が東京を立つ前に考へて居つたのと一致してゐる。決して朝鮮の統治は失敗しない、必ず成功する、成程不逞鮮人も居る、共產主義も宣傳されて居る、獨立運動もある、參政權の運動もある、色々な運動がありませうけれども、要するに共產主義の如きは之等は内地に於ても場合に於ては兵力を以て押へ付けなければならぬ、斯の如き主義は容れることの出来ない所のものである、獨立運動の如きは是は何處から何處迄、先々迄あるべき運動である、朝鮮は獨立を失つた國である、失つたならば之を恢復しやうと云ふ考は朝鮮の千七百萬の人民中に有つて居るものが多數あるべきである。是は如何なる時、如何なる善政を布いてもあるべき思想で寔に已むを得ないと思ひます、如何に善良なる統治の下にも獨立運動は必ずあるのでありませう、それから參政權の運動、自治制の運動と云ふものがあります、之等は時の問題である、永久朝鮮をサブザジエクト、レースとして取扱ふことは出来ないのです、殊に諸君も御承知のことでありませうが、早晚參政權を與へるか、或は自治制を與へると云ふ必要がある、其處迄達するには教育も授けなければならぬ、産業の發展も奨励しなければならぬ、總て朝鮮を日本の爲にエキスプロイットせずには朝鮮人の爲に同情を以て開發してさうして彼等を日本のインテグラル、ハートとして取扱ふことに依つて始めて日本帝國が朝鮮を合邦した理由が説明せらるゝのであります。

朝鮮は駄目である、朝鮮は獨立をさせなければならぬと云ふ人もあつたのであります、日本が朝鮮を併合したのが宜いか、悪いか、是は別問題であるが、伊藤公爵の如きは一つの疑問として居られたと云ふ

ことも聞いて居るのでありますが、一度朝鮮と結婚した以上は之を離縁すると云ふことは出来ない、若し之を失ふことがあつたならば日本帝國はどうなるか、日本はスペイン、ポルトガルのやうな國になつて終ふ、一度同胞とした以上は朝鮮は日本帝國の一部分として何處迄も統一して行くに云ふより外途はない、結局は獨立に亞ぐ所のベストを與へると云ふことが必要である。段々人智が發達するに従つて彼等の要求もあるでせう、人に依つては朝鮮は東洋の愛蘭である、到底日本が支配することは出来ないに云ふ人もある、併し日本人はそれ程の愚民ではない、必ず統治は出来ると思ひます、成程愛蘭に於ては英國は非常に困難をして居りますけれども、愛蘭と英國の關係は朝鮮と日本との關係とは非常に違ふのである、英國の愛蘭に對する今日迄の統治は有らゆる機會があつたけれども、之を逸したのであります、千八百八十六年自治制を布いて居つたならば愛蘭は今日の如くはならぬ、千八百九十四年グラッドストーンが第二の愛蘭自治案を出した時に之が通過したならば矢張り愛蘭は今日に至らなかつた、亦アスキスの政治の下に愛蘭の自治案は通過した、其の時に直ちに之を實行したならば愛蘭は今日に至らなかつた、英國はやり損ひに重ぬるにやり損ひを以てして今日の如き愛蘭を實現したのであります、日本はそれ程間拔けたことはやらぬ、既に朝鮮統治に就て非常にリベラルポリシーを齋藤總督の下に取つて居る、是は外國人が異口同音に言ふのであります、今迄は朝鮮はどうなるか、第二の愛蘭となるかと思つたが、今日私が會ふた外國人の如きは斯う云ふことを言ふた、初めは日本は朝鮮を印度のやうにするとと思つた、後に愛蘭の如きものにな

りつゝあるやうに思つた、さう云ふ虞れが十二分にあつた、今日では朝鮮は矢張り日本帝國の一部分として統治されるやうになると云ふことを信ずる、是は此外人の意見であります、外人の多數はさう云ふ考を有するに至りつゝあります、彼等の腹の中はさう云ふことを希望して居るかどうかは別問題でありますけれども、今日では朝鮮は日本の一部分として残ると云ふことを彼等は信じて居ると私は思つて居る次第であります、之から後朝鮮問題に就ても矢張り今と同じやうに色々な運動もありません、共產主義の運動もある、有らゆる運動がございませう、私の面會した鮮人の中には共產主義の人は餘り居りませぬ、幸か不幸かさう云ふ風な人に面會する機會を餘り得ませぬが、段々平壤方面に向つて行つたならばさう云ふ方面の人に會ふかも知れませぬ、亦滿洲に行けば非常にさう云ふ鮮人が多いので或は會ふかも知れませぬ、私はそれ等の人に逢つて彼等の希望を聞いて見たいと思ひます、果して機會があるか知りませぬが、有らゆる人に會ふと云ふことが一番必要だらうと思ひます、此の共產主義に就ては私の友人など東京に居つて大分憂へて居る人がありますが、朝鮮から這入つて來て日本にも段々増加すると云ふことを聞いて居るのであります、併し是は私は心配しない、如何なる共產主義の運動があつても憂ふるに足らぬ、共產主義は暴力である、暴力は武力で押へる、斯の如き主義が日本の國體に於て成功する氣遣ひがない、此の間京城中學に於て一例を惹いて言ふたのであります、英國に於て百五十萬の失業者がある、七百萬の勞働者の中で百五十萬の失業者がある、彼等が革命運動をやつても成功しないと云ふことを目下倫敦に居るジャバン、

アドバー、タイザーの主筆から私に言つて來た、何んとなれば英國は中産階級、知識階級がしつかりして居る、故に決してレニンの共產主義の如き或は形を變へた革命が英國に於て成功することは斷然なと思ふと、此のジャパン、アドヴァ、タイザーの主筆のバイヤスと云ふ人は能く日本を識つて居る、而して彼が申すには日本位良い國はない、其の國體と謂ひ、社會の組織と謂ひ寔に世界に例がない、日本は寔に良い國である、之の以上の國はないと云ふことをバイヤス氏は言つて來た。日本に亞いで良い國は英吉利であります、一昨夜も英米人が十名ばかり集つて色々議論をした末に、英人は米人の攻撃をする、曰く米國位横暴な國はない、資本主義の横暴な國である、表面は民主主義の國であるが、あれ位オートクラシーの國はないと云ふて英國人が攻撃した、日本と英國は表面は立憲王國であるけれども、事實に於て日本と英國は兩院で以て協賛したものは皇帝は決して拒まない、上下兩院の案を拒むと云ふのは米國大統領だけである、米國は一口に言ふと偽善國であると言つて攻撃したのであります、既に日本の社會が健全であれば朝鮮で如何なる共產主義の運動があつた所で私共は何とも思はない、決して成功する譯はない、向ふは暴力である故に、此方は武力で押へれば宜い、獨立運動に就ては是は決して鮮人に教育を授けてはならぬ、産業の發展をしたならばどうなるか、是は西洋人でも言ふて居るのであります、彼等曰く若し君の言ふ通りに朝鮮人に教育を普及したならば、彼等は言ふであらう、朝鮮はどのみち奪はれた國である、どうしても獨立しなければならぬと而しそう云ふことになつたならば獨立を與へなければならぬと言ふが、私はこう思

ふ、獨立を與へる必要は其の理由が全然ない、日本の統治は朝鮮人多數の幸福になつて來た、朝鮮人が獨立を恢復しやうと思へば暴力に依る外はない、假りに朝鮮が教育が普及されて、産業が發達して、朝鮮の人口も千七百萬が三千萬になつて、朝鮮が非常な富を作つた時に當つて、之が暴力で獨立しやうと企てた所で到底獨立は出來ない、其の時は日本の富は數倍となり、人口は一億になる、今世界で第三強國であるが、其の時は二番になつて居るかも知れませぬ、亦ならなければならぬと思ひます、外國が干渉してどうすると思ふことがあるかも知れませぬけれども、外國が朝鮮の獨立戰爭の爲に干渉することは斷じてないと思ふ、米國が干渉すると言ふか知れませぬけれども、米國と雖もさう云ふ馬鹿なことはない、ルジテニア號が沈められて何百と云ふ生靈が海底の藻屑となつたけれども、ウイルソンはトウ、ブラウド、トウ、フアイトと言つて強い國には容易に干戈を取り得なかつた、併し歐洲戰爭では中立を守つて居つたが、どつちか勝つた時は米國は飛んでもないことになると思ふことで戰爭の結果が見えてから參加したのであります、假りに他日朝鮮が獨立運動を企てた所で、企てた時の力に對しては日本は更に數倍の力を有つやうになるのであります、さう云ふ時に當つて理由なしに亞米利加が干戈を執つて朝鮮に力を貸すと云ふことは決してあり得べからざることである、人に依つては露西亞、獨逸の禍ひが東漸して朝鮮を壓迫することがありはしないかと言ふものもあるが、今日では人が私の意見を笑ふのでありませうが、私は笑はれても自分の陳べる所が間違ひないと今日でも思つて居ります、レニン政府は非常な成功である、是は承認しなけ

ればならぬと云ふことを大分有力なる人が言つて居る、果して成功するや否や、まだ疑問であると思ひます、露西亞の眞情は今日一層悪くなりつゝあると思ふ、固より今中産階級は皆滅ばされて、此の暴政に服して居るのは何故かと言へば手の出しやうがないからである、英國からの色々の情報に依つて見ると、英國は此の機會を狙つて居ると思ふ、英國も米國も宣教師なども是は世界文明の恥辱であると言ふのであります、彼等は共產主義を叩き壊さうとして居る、共產主義が世界に與へたエキザンプルを見ても二百萬の露西亞人が虐殺され、レニン政府は殆ど史上なき所の暴政を逞しうして居る、是は世界が認めて居る、英米は何處迄も露國をやつつけたいがやつつけることの出来ない理由が二つある、一つは干戈を執つて叩き付けたいけれども、自國の勞働者が承知しない、一つは大した目的のない爲に兵隊を動かすと云ふことを欲しない、亞米利加が西伯利亞に出兵したのは露西亞に同情した爲に出兵したのではない、實言へば日本と一緒に白軍を助けて赤軍をやつつけたいのが亞米利加のキアピタリズムの考であつた、總ての有様がさう云ふ譯であらうと思ひます、それ等を考へれば共產主義と云ふものが決して成功するとは見えないのであります、日本に居る若い人などは私の言ふことを聞いて間違つて居ると云ひますが、私は自分の所信を疑はないのでありまして、若し不幸にして共產主義が大いに發達する時があれば世界の文明が地に落ちる時であります。

斯く觀じ來れば朝鮮の統治の如きも大して憂ふべき所はない、要するに獨立運動をやつた所で成功する

譯はない、共產主義も成功する譯はない、要するに諸君が朝鮮に在つて、總督府ばかりではいかぬ、朝鮮に居る所の三十萬の同胞が名實共に朝鮮人を同胞と見て、彼等に親切を盡すと云ふことが一番必要な條件である、彼等もヒューマンである、親切を盡されて嫌ふ氣がするものではないと思ひます、斯の如くにして徐に朝鮮人を御して行くと言ふことをやつたならば決して朝鮮を統治することが出来ないと云ふことはない、若し朝鮮を失ふことがあつたならば日本其のものは末である、亞米利加に於ては朝鮮獨立の爲に同情會が澤山あつたのであります、六つ七つありました、近頃は之等の中で半分は解散されたと信ずるのであります、英國に於ては一つあります、是はゼ、フレンド、オヴ、コレアンス、ソサイティーと稱へて居ります、此の主腦はマッケンジーと云ふ人である、彼が主腦になつて、一昨年であつたと思ひますが、英國のハウス、オヴ、コンモンズに於て貴衆兩院議員のメンバー四五十人を招待して朝鮮は日本から非常に壓迫を受けて居る、どうしても獨立させなければいかぬと云ふことを演説した時に、立所に二三十人の賛成者を得て、貴衆兩院議員が賛成者になつて同情會に屬したのであります、私はマッケンジーと云ふ人は面識はないのであります、大分書面の取交しをやつて居りますが、私は不埒な奴だと思つて居つたのであります、と言ふのはコレアス、ファイト、フォアー、フリードムと云ふ本を彼が著して居る、其の本の中に日本の朝鮮に於ける暴政と云ふ題の下に大分日本を攻撃したのであります、私は外交時報に於てマッケンジーは怪しからぬ奴である、彼の朝鮮のことを書いたことは多く捏造であると云ふことを論じたのであります

す、それがジャパン、クロニックと云ふ排日として知られて居る新聞に譯掲されたのでありまして、之が亞米利加の新聞に轉載され、續いて英國の新聞雜誌に轉載されたのであります、其處で彼は私に手紙を寄越して曰く、御前は俺の書いた所の本は捏造であると言つた、其の捏造であると言ふ證據を擧げる、證據が擧がらなければ紳士として公に謝罪しろと云ふことを言つて來たのであります、是は彼としては尤もであると思ひます、私は迂つかり筆を執つて書いたけれども、捏造と云ふ證據は有つて居らぬ、けれども感情上奴の書いたことは捏造であると言ふことを論じたのであります、而してマッケンジー氏の本は不幸にして東京では賣品として許してない、私は一冊を持つて居つたのであります、丸善でも賣つてない、其處で上海、神戸、横濱などの英吉利人俱樂部に言つてやつて、自分は斯う云ふ破目に陥つた、捏造であると言ふ證據は有つて居らぬ、併ながら捏造であると言ふ感じを以て書いた所が、著者たる英國人が之を問題にして來た、固より彼に對して自分が答辯をすることは譯ないことであるけれども、苟くも日本の貴族院議員として徴々たる一外人の問題とされては、相當自分の所論を辯解するだけの材料がなければならぬ、君等は皆讀んで呉れと云ふて英國人にも日本人にも讀ませたのであります、今日京城へ着いた所の頭本元貞君も其の一人であります、英國人は英人の同胞が斯う云ふことを書くと言ふことはいかぬ、マ氏は伊藤公爵の惡口も書いた、スチブンスの惡口も書いた、さう云ふ風に何でも彼でも惡口を書くと言ふことはいかぬ、悉く君の言ふことに同感であると言つた、其處で私はマッケンジーに御前に返答をする前に色

々な人に同じ本を讀んで貰つた、出来る限り手段を盡して讀んで貰つたが、英國人も日本人も悉く私に同感である、御前は何か他に目的を有つて日本を傷ける爲に書いたのであらう、それで私は取消しをしないと云つてやつた、所が又彼は自分は名譽を傷けられたから、傷けた以上は紳士として相當取消しをやつて宜いじやないかと言つて來た、私は君は水原事件を取つて掛つて日本は朝鮮に對して虐政を行つたと言ふが、固より水原事件は善くないことである、併し之にはプロヴォケーションがあつたから己むを得ない、印度に於ける事件、亞米利加の黒奴のリンチの如き、或はキュー、クラックス、克蘭と云ふ秘密結社があります、是は良民に對して秘密制裁を加へると云ふことが目的である、結社が見て自分等の目的に反して居れば良民を秘密に殺して終ふ、之に對して中央政府は手を出すが出來ない、裁判所の内、内務省の中に或は此結社の會員が居るかも知れない、故に米國人は之に對して手を出すが出來ない、亞米利加人が日本を批難する爲に日露、日清の戦争の時に支那の探偵、露西亞の探偵たりし鮮人が銃殺されてゐる寫眞を擧げて、日本は今日でも斯の如き虐殺をして居ると云ふ記事を擧げて居る、彼等は斯の如く窮しきつて日本の攻撃をやつて居る、之を公平なることと考へるか、露西亞のザー並にザーの皇后、それから皇太子、可憐なる所の皇女悉くレニンの爲に虐殺された、二百萬の露西亞人が虐殺され、二千萬の露西亞人が間接に餓死した、其のことに就て君は一言ともヴォイスを擧げて攻撃したか、一水原事件を取つて彼れ是れ言ふのは何たることであるか、私は水原事件を葬らむとするのではない、亦辯解するでもない、

併し之を取つて日本の統治は暴政であると結論するのは公平なることではないと言つた、それから同じやうなことを繰返して何遍か書面の往復をやつたのであります、最後にマ氏から手紙が参つたのであります、是は人に貸して居つたのを丁度今返して貰つたのであります、是はモスコウからの手紙で十頁ばかりのタイプライターで書いた長い手紙であるが、彼が言ふには自分は今肺炎で寝て居つて寝返りすらもすることが出来ない、詰り瀕死の状態である、それであるけれども、速記者に命じて所見を陳で、併せて愚見の存する所を呈したい、人の將に死なむとするや云々と云ふことは此のことかも知れませぬ、彼大いに變つたのであります、長いものでありますから、一々言ふことは出来ませぬが、彼の結論が面白い、即ち朝鮮の占領、其の後生じた不幸なる出来事、即ち水原事件などを意味するのであります、悉く既往に屬する、華府會議は朝鮮の占領を永久に認めしむるに至つたと思ふ、既往數箇年間他國に棲んで居る所の私は日本に於て平和主義が發展したことを喜ぶのである、斯う云ふ次第であるから、朝鮮に於ける所のプログレッシヴ、エレメントがリベラル、エレメントと一緒に働くことが宜いであらうと思ふ、他日日本が朝鮮に自治制を與へることになつたならば朝鮮に於ける所の面倒は永久的に終焉を告げるのであると思ふ、御前と同じやうに私は世界の國際間の關係と云ふものは平和的に親密に發展しなければならぬと思ふのである、私は日本が帝國主義、武斷主義を捨てた爲に世界に於て一層高い、位置を得たと信するのである、世界は向ふ見ずの帝國主義が如何なる結果を生ずるかと思ふことを既往數年間に實驗したのである、

私はそれであるから日本人民の友達として斯う云ふことを希望する、冀くば獨逸のやつたやうなことが繰返されないことを希望すると云ふことで、結論を陳べて、段々日本が變つて來て居ることは認めて居るが、最後に斯う云ふことを言つて居る、ドクター、シンマン、リー即ち李承晩、是は御承知の通り上海假政府の國務總理であります、マ氏は彼に手紙をやつたが、其の寫しを同封して居ります、即ち曰く私は朝鮮の非常なる友達であると云ふことは疑ふ人がない、年百年中私は著述に依り、新聞記事に依り演説に依つて、其の外人を訪問して朝鮮人の爲に盡したのである、私は朝鮮の友人である、故に御前に對して斯う云ふことを言ふ権利がある、朝鮮のリベラル、エレメントは今迄の方法を變へたら宜からう、華府會議は世界が永久朝鮮は日本の一部分でなければならぬと云ふことを決定するに至つた、今迄朝鮮は暴力に訴へたが其の暴力は不成功に終つたのである、故に日本帝國に於て日本プロバに於て御前達のオーガナイゼーションを立てる、さうして何か不平があつたならば日本人民に直接訴へよ、斯の如くして御前達は公平なる政治を行ふて貰ふこと疑ひない、世界は御前達の爲に如何なる場合に於ても干渉はしない、斯う云ふたのであります、私は華府會議に就て非常に不愉快な感じを有つて居るのであります、華府會議は日本の立場を將來に於て困難に陥らしめるかも知れない、假りにそれが無いとした所で苟くも一國を代表した所の我が全權が、もつとあれ以上の結果を得られたにも拘らず常に讓歩を重ねて屈辱外交に終つたのであります、併なから一つの副産物があつた、是は偶然であるかも知れませぬが、それは英米をして朝鮮の統

治は日本にさせなければならぬ、日本に侵略的野心はないと云ふことを考へしむるに至つた、我が日本の全權は初めから計畫して掛つたのではないと思ふけれども、朝鮮の獨立運動から英米が漸次手を引くやうになつたと云ふことは偶然の産物であつたと思ひます、華府會議に就て陳ぶれば幾らもありますが、諸君はリベラル、エレメントの方である、私は率先して二重外交を攻撃したのであります、併ながら私は華府會議の結果米國の心中を疑つて居るのであります、米國の態度が甚だ公平を欠いで居つたと思ふ、例へて見れば五五三の比率を決めるには千九百二十一年十一月十二日迄の既成艦を土臺として決めたのであります、米國は十一月十二日に華府會議を召集すると云ふことを知つて居つたのであります、故に彼は自分の軍艦の超弩級艦のメアリーランドなどは非常に急いで建造したのであります、日本の陸奥は既成艦であつたが、それを世界に發表しなかつた、陸奥は既に二千五百哩の試運轉をやつて居つたのであります、それを既成艦の中に入れない爲に五五三の比率を決めたのであります、日本は大いに抗議を申込むべきであつたのであります、米國のやり方はステーツマンのやり方でない、其の後の米國の軍備擴張、表向きは軍備縮小であるが、或は毒瓦斯の如きも大いに研究し、或は又毒瓦斯を貯藏する所の飛行機を造つてゐるのであります、毒瓦斯は華府會議に於て禁せられてゐる、其條約は批准はされて居らぬけれども、華盛頓會議の精神は守らなければならぬ、然るに主宰者である所の米國が毒瓦斯を貯藏する所の飛行機を造る、八千哩繼續して飛ぶ所の飛行機を造る、併しそれで亞米利加が朝鮮の獨立或は支那の爲に日本に向つて戦

争を仕掛けて來るとは思はない、併しながら日本の力を五五三に限つて自分は有らゆる戦備をして、一口に言ふと我儘をやらうと思ひます、ですから華盛頓會議の精神は既に頽れて居ると思ひます、素より亞米利加は勝手に戦争をやると思ふことは出來ない、議會の承諾を得なければ戦争は出來ぬ、而して亞米利加が朝鮮の獨立の爲に、侵略主義の爲に戦争をすると云ふことは決してないけれども、兎に角あの國は我儘をやる、五五三の比率に依つて日本の武力を制限して亞米利加は非常なる武力を有つて居る以上、飛行機其の他の武器に依つて日本に對して非常なメネースになるだけのことをやつて遂に東洋に於ける日本の働さを束縛することになると云ふことは間違ひないことと思ひます。

私の御願ひするのは諸君は朝鮮に御住ひになつて居る方々であります、日本が朝鮮を失ふやうになれば日本帝國其のものか末である、初めから朝鮮を合併して居らぬければ宜い、併ながら一度朝鮮を合併してから之を失ふやうになれば日本の世界的權勢が頽る、日本はスペインか伊太利位のものになる、伊太利位の地位も保つて行けないのであります、朝鮮を統治するには總督府ばかりの力ではいけない、日本の國民が舉國一致して朝鮮の爲同情を持たなければならぬ、殊に朝鮮に居られる方々は朝鮮人に對して、素より知識の程度其の他大いに違ふのであります、兎に角暫く辛抱して、固より恩に押れ易い民族であると思ふことであるから恩威交々加ふると云ふことに官民一致して朝鮮の爲に盡されむことを切望するのであります、ちよつと御話する積りで少し長くなりましたが、六時から外に約束もありませんから………。外に二

つ三つ面白い問題もあります、例へば阿片問題の如き、關東州が阿片の漸禁政策を執つた、臺灣が阿片の漸禁政策を執つた時には十六萬幾らの飲者があつたが、今日では三萬六七千しかない、關東州は支那から日本が租借して居る所の一部分である、支那は國法に依つて阿片を禁止して居る、固より亞米利加の酒精の禁止と同じやうに何の役にも立たぬが、國法に依つて禁じて居る以上は日本も其租借地に於て之を禁止することが必要であると思ひます、之から私は關東州に行つて卑見の存する所を陳べたいと思ひます、朝鮮も滿洲に接壤して居る所でありすし、亦朝鮮に於ても阿片栽培取締法がありますが、朝鮮の統治には大體に於て敬して居りますけれども、斯う云ふ風な例があると云ふことはどうしたものか、僅か五萬圓か幾らの金を得る爲に斯う云ふものを存して置くことは如何であらうかと思ひます、兎に角外國から攻撃を受けるやうなことはすつかり廢めて然る後我々は言ふことが澤山あるのであります、今日も晝飯の時にネグロ其の他のことに就て問題があつたのであります、今日に於ては各國共に益々非常に偏狹な考になつたのであります、日本だけは偏狹な考は棄て、滿洲に於ける所の日本の政策にしる、朝鮮の統治にしる悪いことは手を洗ふて、世界に見ると云ふことになつて初めて日本が東洋人種を統一することが出来ると思ひます、御話して居ると切りがありませんし、時間も大分過ぎましたから之で失禮致します。(終り)